



宴会では安来節と安来拳

安来拳という遊びがあることを知っていますか。江戸時代に中国から伝わった狐拳が起源でジャンケンと同じ三すくみ拳の一種です。両手をあげて手のひらを見せる「狐」と、握りこぶしを突き出す「猫師」、両手の甲を相手に見せる「庄屋」が基本。「狐」は「猫師」に撃たれ、「猫師」は「庄屋」に雇われ、「狐」は「庄屋」

かつて出雲地方で流行 お座敷遊戯・安来拳(飯梨地区)

をだますという力関係で勝敗を決めます。大正時代から昭和40年代にかけて出雲地方で流行しました。当時の庶民の宴会では、場が盛り上がるに誰からともなく、安来節を唄い、そして安来拳を打つのが常だったそうです。

遊び方は、まず向かい合わせに座り、手拍子を打ちながらテンポの速い安来節を唄います。続いて「はいサ、はいドン、きたーこらサ」とおはやしを入れ、「こらサ」と同時に手を繰り出します。その後、おはやしを何度も繰り返し、2回連続で勝った方の勝ち。負けた方は、目の前に置かれたお酒一杯をグイと飲み干します。慣れてくるとアドリブや速いテンポで行います。

復活を目指して活動中

全国に50以上あった狐拳の中でも5指に数えられるほど隆盛を誇った安来拳ですが、昭和40年代になると宴会で座興をする機会が減り、徐々に廃れていきました。この安来拳を残し、普及しようと昨年8月から愛好者が集い、飯梨交流センターで安来拳を楽しむ



▲5月26日飯梨認定こども園の園児たちが安来拳に挑戦しました。

んでいます。メンバーは社日、島田、山佐、吉田、遠くは出雲市からの20代〜80代の26人。年代も住む所もバラバラですが、安来拳が始まれば、終始、手拍子と大きな笑い声が交流センターに響きます。昔は市内でも地域ごとに行っていた手やリズムが違っていましたが普及に努めています。

世話人の今岡良治さんは「安来拳は道具がいらないし年代も問わない。みんなで盛り上がる安来で生まれた伝統的な遊びです。ぜひ広めたい」と話していました。

●安来市文化財愛護の会
問い合わせ：今岡良治
Tel 28-6481

編集後記

安来市の人口と世帯数 H29.5.31現在

人口合計 / 39,588人
(男:18,970人 女:20,618人)
世帯数 / 14,229世帯

▼日本遺産認定一年を機に、たたらを取材。鉄の奥深さ、神秘さに魅了されました。以前日本で唯一たたら操業を行っている日刀保たたら関係者に「いまだに炉を開くまでわからない」と聞いたことがあります。製鉄は古から思い通りに扱えるものではなく、神秘的で尊いものなのでしょう。(山)
▼現議場で最後の市議会が終わりました。旧安来市から数えると60年以上も市政の舞台だった場所。内部は独特の雰囲気、身が引き締まる一方、レトロな設備からは温かさを感じました。次回の議会からは新しい議場での開会です。傍聴席が増え、バリアフリーになります。地方自治の原点の場へぜひ、一度足を運んでください。(S)

- 資源保護のため、この広報紙は再生紙を使用しています。
- 広報紙にあなたの写真が載りましたら、差し上げますのでご連絡ください。
- 自治会宛の発送等につきましては、地域振興課(☎23-3067)までご連絡ください。



古紙パルプ配合率70%再生紙を使用